

平成22年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	5 - 4 - 5
事務事業名	ごみ収集・焼却等事業			担当課係	環境衛生センター
総合計画上の位置付け	大項目	6. 「街が輝く」		記入担当者	
	中項目	快適に暮らせる生活基盤の整備		内線等	
	小項目	5. 生活関連施設の整備		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	4	衛生費	項	2
	目	2	塵芥処理費	事業	2他
開始年度		年度	根拠法令・要綱等	2臨時職員等賃金・3焼却炉関係費・4収集車両関係費・6一般事務費	
			根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市内におけるごみ収集を行い可燃ゴミは焼却処理を実施
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 市内のごみ収集を行い、可燃ゴミについては焼却施設により施設の適正な維持管理及び周辺地域の生活環境の保全を確保
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） ごみ収集・焼却炉における維持管理に要する経費
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） ごみなどの処理については、地方自治体の責任において処理しなければならない。ごみ収集を行い、可燃ゴミについては当市において焼却処分を行う

事務事業の業績・推移（目標・実績）

		指標名		指標の説明				指標化できない成果
		ごみ処理量		可燃ごみ・可燃性粗大ごみ・資源ごみ・不燃ごみ・不燃性粗大ごみ				
成果指標	単位	H21	H22	H23	H24	将来目標 (年度：平成)		
	トン	目標			15,500	15,300		
		実績	15,581	15,626				
	達成度							

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H21	H22	H23	H24	指標の説明
	可燃ごみ・可燃性粗大ごみ	計画	トン			12,700	12,600	
	実績		12,998	12,856				
資源ごみ（新聞・雑誌・段ボール）	計画	トン			1,000	900		
	実績		788	924				
不燃ごみ・不燃性粗大ごみ	計画	トン			1,800	1,800		
	実績		1,795	1,846				
	計画							
	実績							

事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		21年度決算	22年度決算	23年度決算	22年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	187,625,633	192,635,466	0	194,036,000	
	財源内訳	国県支出金				
		地方債				
		利用者負担				
		一般財源	187,625,633	192,635,466		
	B 人件費 ×	6,938,090	6,769,367	0		
	職員平均人件費	6,938,090	6,769,367			
従事した割合 人	1.0	1.0				
A + B	194,563,723	199,404,833	0			
単位コスト	活動指標の説明	処理費用 / 処理量	処理費用 / 処理量		備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト	12,487	12,761		平成21年4月1日現在 人口41,778人	
	市民一人あたりのコスト	4,657	4,804		平成22年4月1日現在 人口41,507人	

事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 収集業務に関しては民間委託に移行している傾向にある。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 収集業務の能率を図り、また焼却施設の延命になるよう、更にごみ分別の徹底を強化し啓発していけるよう協力してもらう

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	必要性が高い	市民生活の上で日々排出されているごみの収集を行い、可燃ごみにおいては焼却処理することで、市民の快適に暮らせる生活基盤を確保するために、必要な事業である。
	どちらかといえば必要性がある	
	必要性が低い	
	必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	市が行わないといけない	ごみ収集及び処理については、地方自治体の責任において処理する必要がある。
	どちらかといえば市で実施	
	必然性が低い	
	必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	効率的である	分別区分の徹底などの啓発を行い、効率的な収集に努めており、可燃ごみについては直営にて収集焼却処理により運営していることにより、迅速かつ確実に廃棄物の処理を行っている。
	どちらかといえば効率的	
	どちらかといえば非効率的	
	非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	緊急性が高い	市民生活の上で日々排出されているごみを収集して、可燃ごみについては焼却処理することは、市民の生活環境の保全を図るため、他事業に優先して緊急性がある。
	比較的緊急性がある	
	緊急性が低い	
	緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	成果が上がっている	一般家庭からの廃棄物の収集運搬と直営のごみ焼却場での焼却処理していることにより、公衆衛生の向上に貢献している。
	どちらかといえば上がっている	
	どちらかといえば上がっていない	
	成果は上がっていない	
今後の課題	焼却施設の維持管理して運営するためには毎年多額の整備費用が必要である	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	評価点による判定		判定に至った理由
		1	2	
2	1 拡 充 す る	80点以上	1	市民生活の上で必要不可欠な事業であるが、毎年施設維持管理については多額の整備費用が必要である
	2 現状のまま継続する	60～79点		
	3 改善・効率化し継続	50～59点		
	4 見直しの上縮小する	40～49点		
	5 終期設定し終了	30～39点		
	6 休 止	20～29点		
	7 廃 止	19点以下		

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	判定説明
2	1 拡 充 す る	地方自治体において、必要不可欠な事業であるが、ごみ収集していく上での経費・焼却炉施設維持管理の運営には毎年整備費用が多額になってくる
	2 現状のまま継続する	
	3 改善・効率化し継続	
	4 見直しの上縮小する	
	5 終期設定し終了	
	6 休 止	
	7 廃 止	